

トランプが米情報局よりプーチンを選び、CIAは

“パニック・モード”

大統領がロシア物語を支持しないとわかって、深層国家はパニック状態

【訳者注】トランプとプーチンは協力して、この世界を変えなければならない。どちらか一方では、それは不可能であることが、冷静に観察する者には見えてくる。そのためには「ロシア疑惑」などという馬鹿げたものを、まじめに取り合う必要はなく、面倒なら前言を取り消してもよく、プーチンを悪者にしても、自分が不定見と言われてもよいと思っている。トランプは、根本的に善良で信頼できるだけでなく、きわめて知略に富んだ人物だという人々の評価が、ここに至って確実に思えてきた。Q 情報が言う通り、ホワイトハウスはニセ情報を必要としている。そう考えれば、彼が不戦の誓いを立てて就任して早々、ポンペイオに騙されて、シリアを攻撃した（そしてマケインに褒められた）のも、イスラエル大使館をエルサレムに建てて世界を驚かせたのも、陽動作戦であったのかと思えてくる。

彼らが悪から解き放とうとするのは、一国でなく世界全体である。したがって、沖縄の米基地からの解放や、対ロシア平和条約の実現は、その勢いに乗り、かつ乗せるものであろう。ついでに、便秘の続いているケムトレイル問題も、気象予報をされる方々は、いい加減に、わかる限りの事情を国民に話されたらどうだろうか？ それだけでも、今、どれだけ大きな貢献かしのれない。

Sarah George, www.neonnettle.com

December 13, 2018



7月のヘルシンキでのウラジミール・プーチン・ロシア大統領とのサミットをめぐって、激しい反発を浴びたとき、ドナルド・トランプ大統領は、彼のコメントのいくつかを取り消さざるをえなかったと言われる。<https://neonnettle.com/news/4539-deep-state-in-full-panic-over-what-putin-told-trump-at-helsinki-meeting>

トランプが、ウラジミール・プーチンの、2016年選挙干渉への「強力で説得力ある」否定が、米情報局の判断に反して、正確であると主張したとき、CIAはたちまち、完全な“パニック・モード”に陥った、とワシントン・ポストは、匿名の情報インサイダーを引用して、報じた。

https://www.washingtonpost.com/gdpr-consent/?destination=%2fworld%2fnational-security%2fgap-continues-to-widen-between-trump-and-intelligence-community-on-key-issues%2f2018%2f12%2f11%2f23a02cb0-f8db-11e8-863c-9e2f864d47e7_story.html%3futm_term%3d.dc128b58ff80&utm_term=.dc128b58ff80

「それは深い落胆だった」と、CIAの様子を評して、このインサイダーは言った。「ラングリー（CIA本部）では、どの階でも、その事実ショックを受け、文字通りパニック・モードだった。」

CIAとホワイトハウスでは、今もって、この報道について争っている。

トランプは、自分は米情報局共同体を「大いに信頼」してはいるが、なぜロシアが、この選挙の過程に干渉しなければならないか、全くわからないと言った。

「彼 [プーチン] は、それはロシアではないと言っている。なぜそういうことになるか、自分にはわからないと言った。しかし、サーバーに会いたいものだ、心から思っている。私はわが国の情報局の人々を、大いに信頼しているが、今日のプーチン大統領の否定は、全く強力で説得力のあるものだったと、ぜひ言っておきたい」と彼は言った。

ところがトランプはその後、プーチンの選挙干渉の否定を支持するのを、ひっくりかえし、共同記者会見では間違ったことを言った、と言い、モスクワの干渉があったというCIAの結論を、結局、受け入れた。



「この文章はこうあるべきだった：——それは、ロシアでなければならぬ理由はない——」彼はそう説明し、自分が非常にまぎらわしい“ダブル・ネガティブ”を間違えたのだと主張した。

トランプは繰り返しクレムリンとの癒着を否定し、それは「魔女狩り」だと言っている。

モスクワもまた、2016年の投票の干渉と言われるものを、「根拠なし」とし、その主張が確かだとするどんな証拠もないと強調している。

ドナルド・トランプはまた、特別顧問ロバート・ミュラーの、ロシア疑惑調査に関する提出予定の報告を一蹴した。<https://neonnettle.com/news/5748-trump-slams-coming-mueller-report-on-russia-probe>

ミュラーのチームは、2016年大統領選挙における、ロシアの干渉と言われるものをずっと調査しており、ほどなくその調査結果を公表すると言っている。

その公表に先立って、大統領は、調査中に「彼の利害の衝突をすべて隠した」として、彼を訴えた。

トランプはまた、なぜミュラーが、ポDESTA（ベドゲイト代表者）に起こったことを調べる前に、「“向こう側”で起こったあらゆる種類の犯罪」を、調査しないのかと問うている。

——以上